

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スワールキッズ奈良教室		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設の清潔さが高く評価され、快適な環境維持に努めている。定期的な消毒や清掃の徹底が継続されており、利用者が安心して過ごせる環境が整備されている。	個別支援計画の適切な作成と実施により、子どもの特性に合わせた支援が行われている。計画の共有と職員間の連携が支援の質向上につながっている。	職員の研修機会が確保され、専門性の高い支援が提供されている。最新の療育方法を取り入れることで、より効果的な支援が実施されている。
2	活動プログラムが単調にならないよう工夫されており、子どもの興味関心を引き出す取り組みが評価されている。今後も多様な活動の導入が期待される。	職員間の情報共有が適切に行われ、支援の一貫性が保たれている。日々の振り返りを活用し、支援の改善が図られている点が強みとなっている。	保護者向けの情報発信が強化され、支援内容の可視化が進められている。定期的な報告やSNSを活用し、支援の透明性向上に努めている。
3	支援の透明性を高めるため、活動報告の充実や説明会の開催が求められる。保護者が支援の意図を理解しやすい仕組みを構築することが重要。	外部の専門家との連携を強化し、支援の専門性をさらに高める。定期的なアドバイスや研修を受けることで、より専門的な支援が提供できる。	家族支援プログラムの充実が求められる。ペアレント・トレーニングの機会を増やし、保護者が子どもの成長をサポートしやすい環境を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の配置に関する意見があり、適正な人員確保が課題。特に短時間授業時の対応や、送迎時の人員配置の最適化が求められる。	地域との交流機会が不足しており、他施設との連携や合同イベントを企画することで、子どもたちの社会性向上を目指す必要がある。	防災対策や緊急時対応の周知が不十分。定期的な訓練を実施し、職員・保護者が安心して対応できる体制の整備が求められる。
2	保護者会や交流イベントの機会が不足しているため、保護者間の意見交換や情報共有の場を提供することで、事業所と家庭の連携を強化する。	職員の業務負担が増加しているため、業務の効率化や役割分担を明確化することで、支援の質を維持しつつ労働環境の改善を図る必要がある。	緊急時の対応手順が職員や保護者に十分に周知されていないため、定期的な防災訓練や避難計画の共有を進めることが求められる。
3	事故発生時の報告体制を強化し、迅速かつ適切な情報伝達を行うことで、保護者の不安を軽減し、信頼関係を向上させる。	事業所の認知度向上のため、地域でのイベントや説明会の開催を検討し、利用者増加につながる広報活動を強化する。	活動内容や支援計画の情報発信を積極的に行い、HPやSNSの活用を進めることで、より多くの保護者に情報が届くよう工夫する。